

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1890100637		
法人名	社会福祉法人福井ゆうあい会		
事業所名	グループホームたぶのき		
所在地	福井県福井市大願寺3-3-6		
自己評価作成日	平成29年 9月 20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号
訪問調査日	平成 29 年 10 月 16 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方に「普通の暮らし」をしていただく為に、生活の中心は「入居者」という事を第一に考えています。毎日の食事作りは入居者の方にも手伝っていただきながら、すべて手作りで行っています。食材も入居者の方と広告をみて近くのスーパーに買い物に出掛けています。又、入居者の方の要望を聞き、外食やドライブ、喫茶店や希望があれば旅行などにも出かけています。施設に入居する前に行っていた事が継続して行っていけるように支援を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は近くにスーパーマーケットが有り、利用者と食材の買い出しに利用するなど日々の外出先の一つになっている。また道路の向かい側の氏神社は日常の散歩先として、また祭り時の地域の人たちとの交流の場となっている。母体事業所の会議室は、地域包括支援センターや子供会連合会など地域の団体の会議場として提供されている。その他、地区で開催される認知症の啓発や防災タウンミーティングに職員が参加し、地域に溶け込んでいる。日々の関わりでは、日課に縛られることなく利用者本位で支援しており、生活の様子は、定期的にお便りでお知らせするとともに、インターネットの活用で常時ネット上で発信しており家族は何時でも見ることが出来る。家族へは、利用者との関係継続のために職員が働きかけることで、面会に訪れる家族が多い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	人権の尊重と、自由な生活が実現できるように、会議やミーティングを通して話し合い、全職員が共有できるようにしている。	管理者をはじめ職員は、事業所理念を基に利用者の今までの暮らしが継続できるよう支援に努めている。毎日の申し送りの中で確認を行うと共に、毎月のミーティングの前に振り返りの記録を提出して実践の確認を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の店に買い物に出掛けたり、地域の祭りにも積極的に参加をしている。	自治会に加入し、地区の祭にも参加している。地区で開催される防火の講座や認知症啓発活動などには、地域の介護事業所と連携を取って地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の他の事業所や包括と一緒に認知症について地域の方が勉強する機会を設けた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では現在の状況や取り組み又、事故やヒヤリハットの報告を随時行っている。参加者の方からの意見も参考にしている。	隔月の第3金曜日に日時を固定し、事前に葉書で利用者家族全員に案内を送り、参加を促している。会議では出された意見に基づいて話し合いがされ、参加できない家族には議事録を送付し、内容を報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では地域包括支援センターの方に参加をして頂き貴重な意見を聞かせていただいている。松本地区の縁側ミーティングでも協力し開催を行った。	地域包括支援センターとは連絡や相談が日常的に行われ、連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修などで学ぶ機会を設けている。また玄関の鍵もむやみに施錠はしていない。夜19時30分頃から夜間帯のみ施錠をしている。	職員を対象に年2回の研修を実施している。参加できなかった職員へは伝達研修で周知を図っている。日中は施錠せず、外出したような様子の利用者には近辺の散歩に付き添っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について研修で学ぶ機会を設けている。又、言葉使いなどは常にミーティングの際に話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象の方がいないので職員に向けては行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、管理者の方から説明を行っている。その都度家族の方からの相談にも応じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見要望があった際にはミーティングや、運営推進会議の場で報告を行い、話し合いをしている。	多くの家族が少なくとも週1回訪問がある。事業所内での利用者の様子は日々の活動を写した写真等で知ることができ、家族の意見を引き出すきっかけとなっている。家族からの意見や苦情は記録に残し、可能な限り運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度のミーティングの際には意見や提案しやすいように努めている。ミーティングの前には職員一人一人に意見、提案を提出してもらい会議を行っている。	毎月のミーティングや年2回の個人面談では事前に意見や提案を書面にし、それに基づいて会議を開催している。また、管理者は職員が意見を言いやすい環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課、職員面談で勤務状態の把握や、職員の意見を聴き改善できる点は改善を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内の研修や外部の研修にも機会があれば参加するように促している。又、個人、個人で介護福祉士の資格の為の勉強もしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業者からの見学、研修の受け入れを行っている。外部研修に参加をし交流も行っている。また、法人内の他事業所とも交流をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する時点で、入居者の状態の確認などを行っている。日々の生活の中で少しでも信頼関係を築けるように努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に管理者が確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に管理者が確認している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に入居者の方を中心に考え、「一緒に生活をする。」という考えを持ち、買い物、掃除、料理等を一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、家族の方に手紙を書き入居者の方の活動内容な、気になったことを報告している。又、面会に来られた際には状態などをお伝えしている。家族の方が不安に思っている事があえる時などは話をする時間を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人などの面会は制限することなく自由に行ってもらっている。希望される場所への外出なども自由に行っている。	利用者は、家族の協力を得て友人とカラオケを楽しんだり、友人と自由に外出をしている。職員は利用者の馴染みの場所や関係を把握し、故郷をドライブしたり、年賀状のやり取りの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係の把握を行っている。もめごとなどの際には職員が間に入るようにし孤立しないように配慮をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同じ事業所の特養に移っても、定期的に顔を見て安心していただいたり、ご家族の方と関わりを持ち安心していただけるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	台帳作成やアセスメントを行い、情報の中から意向の確認を『行っている。又、日常の会話や表情からも気持ち汲み取るようにしている。	職員は利用者との日頃の会話などを通じて思いを把握するよう努め、会話が困難な利用者には表情やアセスメントを参考に思いをくみ取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人ご家族からお話を聞き台帳を作成している。また日常の会話の中からも聞き取りを行い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申送りや、ミーティングの際に一人ひとりの報告を行い全職員が、その日その日の、状態把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の方の意向を反映できるように努めている。	本人、家族の意向を踏まえ、生活歴や利用者の能力を参考に、職員全体で話し合い介護計画を作成している。また、定期的にモニタリングし、必要に応じて介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々に記録を毎日つけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受難に対応を行っている。その日の状況で取り組みなどを行うこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ショッピングセンター7、飲食店、カラオケなど日々、地域の社会資源を活用し楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期通院は家族の方をお願いをしているが通院時には、本人の状態を伝えたり、医師に文章を渡し状態を伝えるようにしている。又、病院後は家族の方から結果を聞いている。	利用者の希望するかかりつけ医の受診を継続し、基本家族が同行している。家族の同行が困難な時は、職員が同行し、受診結果等の情報は家族と共有し事業所での支援につなげている。また協力医の訪問診察も実施している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護師は配置していない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報をお渡ししたり、定期的に病院へ行き、ご本人様子を確認したりスタッフの方に状態を聴くようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約の際に話をしている。又、状態変化があった際などにはその都度、話を行い認知症の説明や今後の話などを行っている。	契約時に事業所の出来ることを丁寧に説明し、同意を得ている。また、状態の変化に応じて適宜説明を行い、事業所での生活が困難になった場合、他事業所への移行がスムーズに行われるよう支援している。	看取りの研修への参加や事業所における終末期の対応を職員で話し合い指針を作成する等、終末期の利用者やその家族の意向に応えるための取組みに期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会を行い、徐々に実践力が付いてきていると思うが、全職員が完璧に身に付けているとは言えない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	まだ十分に対応できていない。原子力災害時の受け入れ施設になっているので、相手の施設との挨拶等を行っている。	夜間・降雪時の想定も含め年2回の避難訓練を実施している。また、災害時の避難支援について地区の防災タウンミーティングに参加し、地域との協力体制構築に向け取り組んでいる。非常食は3日分の備蓄がある。	災害時の訓練は、日頃から利用者の状態を考慮し、具体的な手順によるシミュレーションを基に行うなど、緊急時に迅速な対応ができるよう実践的な訓練となることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症対応の原則を守り、入居者の方に対しては常に笑顔で、敬語での会話を心掛けている。	利用者の人権を守るという理念にもとづき、全体で勉強会を開催している。職員は、事業所内で大声を出すことは控え、不適切な言葉遣いがあった場合はその場で注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出のお誘いなども、声掛けを行い、行くかどうかを自分で決めていただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中、居室で過ごす方もいればリビングに出て来られ作業をされる方もいたり、外出されていたりと、皆さん思い思いの事をさせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時には口紅を塗る方ファンデーションを付ける方、いつもより少しおしゃれな洋服を選んで着る方とそれぞれにおしゃれをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事作り後片付けを入居者の方と一緒にしている。又、メニューも入居者の方の希望を聞いたり、買い物へ一緒に行っている。	毎日、利用者と折込チラシを見ながら献立を決め1、2名の利用者と共に行き物に行っている。全て事業所内で手作りのため、利用者の好みに合わせて味付けをし、また料理の香りが食堂に漂い五感を刺激して食事を楽しめるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量、水分量の記録を行っている。又、後片付けを入居者の方と一緒にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを個別に行ってもらっているが拒否する方に対しては徹底はされていない。介助が必要な方には介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間は決まっておらず、一人ひとりの排泄パターンに合わせて行ったり入居者の方の訴え時に支援を行っている。	ほとんどの利用者がリハビリパンツで排泄が自立している。チェックシートを活用し適宜声掛けしトイレに誘導している。同性介助を基本とし、勤務上同性とならない場合も同意を得て支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に果物を提供したり。ヨーグルトや牛乳を摂取してもらい、便秘の予防をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日は決めておらず、毎日お風呂を沸かしており、出来るだけ希望に添えるように配慮している。	週2～3回の入浴となるよう支援している。個浴で支援され、季節に合わせたゆず湯やしょうぶ湯などの他に入浴剤を利用することもある。浴室にはリフトが設置されており状態の変化に柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間はバラバラで、リビングでテレビを観て過ごしたり居室でゆっくりと過ごす方もいる。夜間帯は2時間おきに巡視を行い室温などの管理を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬をもらってきた際には、薬情ファイルに閉じ全職員が目を通すようにしている。又、服薬の変更時には申し送りを徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり好きな事をしてもらおうようにしているが、まだ入居者の方のやりたい事、好きな事があると思う。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物の他に天気の良い日にはドライブや外出を取り入れている。	花見や紅葉狩り等の季節の行事の他に、毎日の買い物同行時にドライブで自宅を回ったり、足湯に行ったりするなど外出の機会をつくっている。また道路の向かい側の神社も日常的な散歩コースとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設の方でお金を預かっている。買い物や外出の際には使えるようになっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方は自由に使用をしている。施設の電話を使用したい際には職員に声を掛ければ自由に使用できる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の生活をする場なので「家」として過ごせるように落ち着ける空間づくりを行っている。今後、もっと緑などを増やしていきたい。	玄関や食堂には職員による季節の花がさりげなく飾られている。共用空間は、利用者の制作作品が飾られている他、余白もありすっきりと清潔感がある。また、面会の方とゆっくりくつろげ、プライバシーにも配慮された空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングなどの共有空間で一人でくつろぐような場所はない。一人でゆっくりと過ごしたい時には居室や談話ペースで過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	筆筒などはすべて自由に持ち込んでいただいている。一人ひとりの生活に合わせて、テレビ、冷蔵庫なども持ち込んでいる。	利用者の使い慣れた家具などが持ち込まれ、以前の生活の雰囲気が感じられる。また、遺影や家族の写真が飾られ、テレビなども持ち込まれて入居者が居心地よく落ち着いて暮らせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「家」として考えているのでリビングと廊下を扉で分けている。入居者の方も居室で過ごしたい時と、リビングで過ごしたい時とをしっかりと自分の意志を持って生活している。		